

## 里井陸郎先生御経歴及び御著述目録

### 〔経歴〕

- 大正三年十二月二十一日 大阪府泉佐野市に生まる  
昭和二年四月 大阪府立岸和田中学校入学  
昭和六年四月 高知高等学校文科乙類入学  
昭和十年四月 京都帝国大学文学部入学  
昭和十三年三月 同大学国語国文学専攻卒業  
昭和十三年四月 同志社中学校教諭  
昭和十七年四月 同志社大学予科講師  
昭和十八年四月 同志社大学予科教授  
昭和二十三年四月 同志社大学教養部教授  
昭和二十六年四月 同志社大学文学部教授  
昭和二十九年 同志社大学文学部教務主任  
昭和三十六年 同 右  
昭和三十七年 同志社大学大学院教授

### 〔著書〕

- 昭和五十四年四月 観世流名誉師範を授与さる  
昭和五十五年四月十日 胆囊癌の為逝去
- 新註梔中納言物語 昭和二十三年十月 河原書店  
近代文学選（共著） 昭和二十七年四月 同大出版部  
近代文学輯一 昭和二十八年四月 同大出版部  
日本文学研究入門（共著）―謡曲 狂言― 昭和二十八年八月 ミネルヴァ書房
- 近代文学鑑賞 昭和二十九年四月 雄渾社  
近代文学ノート 昭和三十四年五月 雄渾社  
謡曲文学 昭和四十一年八月 河原書店  
英訳花伝書（共著） 昭和四十三年七月 住谷・篠部出版会
- 謡曲百番 観世流名曲選・上 昭和五十年五月

日本コロンビア

謡曲百番 観世流名曲選・中 昭和五十年十二月 同右

謡曲百番 観世流名曲選・下 昭和五十一年九月 同右

謡曲百選 その詩とドラマ(上) 昭和五十四年五月 笠間書院

金七芸談(編集) 昭和五十四年十一月

金七芸談刊行会

### 〔論文〕

玉葉和歌集私抄(一)〔『帚木』昭和十七年七月号〕

玉葉和歌集私抄(二)〔『帚木』昭和十七年九月号〕

玉葉和歌集私抄(三)〔『帚木』昭和十七年十月号〕

玉葉和歌集私抄(四)〔『帚木』昭和十七年十一月号〕

玉葉和歌集私抄(五)〔『帚木』昭和十八年一月号〕

玉葉和歌集私抄(六)〔『帚木』昭和十八年十一月号〕

儂なき真実——永福門院の三つの秋の歌——

〔『帚木』昭和二十二年復刊第一号〕

松に音する 〔『茶道雑誌』昭和二十三年七月号〕

「花」を超えるもの——世阿弥と利休の引歌について——

〔『茶道月報』昭和二十七年十二月号〕

芸能雑話(一) 〔『茶道雑誌』昭和三十一年四月号〕

里井陸郎先生御経歴及び御著述目録

芸能雑話(二) 〔『茶道雑誌』昭和三十一年八月号〕

中世文学の世界について 〔『日本文学』昭和三十二年九月号〕

芸能雑話(四) 〔『茶道雑誌』昭和三十八年二月号〕

京都時代劇映画の伝統——松之助時代を中心として——

〔『同志社大学人文科学研究所紀要』昭和三十八年四月〕

日本映画史年表 (同右)

芸能雑話(五) 〔『茶道雑誌』昭和三十九年六月号〕

能と謡——劇と文学のあいだ—— 〔『日本文学』昭和四十年三月号〕

平家物語と能 〔『同志社国文学』創刊号 昭和四十年四月〕

芸能雑話(六) 〔『茶道雑誌』昭和四十年六月号〕

「巻絹」をめぐって(対談) 〔『観世』昭和四十年十一月号〕

「英訳花伝書」について 〔『観世』昭和四十三年十一月号〕

今日における学問のあり方 〔『日本文学』昭和四十五年二月号〕

「通盛」をめぐって(対談) 〔『観世』昭和四十五年七月号〕

作品研究「朝長」 〔『観世』昭和四十六年三月号〕

「吉野天人」をめぐって(対談) 〔『観世』昭和五十二年三月号〕

平家能と女性——ツレの位相を中心に——

〔『金剛』昭和五十三年一月号〕

「熊坂」をめぐって(対談) 〔『観世』昭和五十三年八月号〕

「草子洗子町」をめぐって(対談) 〔『観世』昭和五十四年五月号〕